

とらまるちようじゃ
虎丸長者ふぞうじ
武蔵寺創建をめぐる

▲紫の花房が垂れる武蔵寺の「長者の藤」



▲同寺縁起絵図に描かれた長者の藤植え

夜になると、山口村^{こやまち}木屋町^{きやまち}というところの山に怪火が出没して、村人は恐れおののき、この一帯に近づこうともしませんでした。

そこで虎丸は、自分がその正体を確かめようと、出かけていきました。山に入ると怪火が飛び出してきたので、虎丸はすかさず弓矢を放ち、これを射落しました。

ところがその夜、虎丸の夢枕に神が現われ「私は薬師十二神将の内の摩虎羅大将だ。お前が射止めたのは薬師如来の霊で、その矢は霊木に刺さっているはずだ。すぐその木で薬師如来と十二神将の像をつくり、建物を建てて安置せよ。そうすれば、国や氏族は繁栄するであろう」と、お告げがありました。

虎丸は山へもどって見ると、神のお告げのとおり、ふた抱えもあるような椿^{つばき}の大木に矢が刺さっていました。驚いてその矢を引き抜き、椿の木を伐って持ち帰りました。

釈^{しやく}祚^{そん}蓮^{れん}という僧を都から招いて仏像を彫らせ、堂塔も建立して末永く信奉しました。

武蔵寺の山号「椿花山」も、この仏像の原木に由来しているといわれます。

史跡^{てんぱい}天拝^{てんぱい}の山麓にある椿花山^{ちんかざん}武蔵寺^{ぶそうじ}（筑紫野市大字武蔵）は筑紫路の古刹として有名です。奈良時代にできたようですが、その創建については不明な部分が多い寺院です。

同寺に伝わる「武蔵寺縁起絵図」（筑紫野市指定文化財五幅＝室町～江戸時代初期の作）には、創建にかかわる人物が登場しています。御笠部^{みかさべ}武蔵^{ぶそう}邑^{むら}須^す多^た礼^{れい}に住む藤原^{ふじわら}虎丸^{こまる}（曆）という長者です。築地をめぐるした豪邸を構えて、75人の家来を上武蔵、中武蔵、下武蔵の三村に住まわせていました。



▲築地をめぐるした豪華な須多礼の居館

また境内にある「長者の藤」（筑紫野市指定天然記念物）は、虎丸が「堂塔の盛衰は、この藤の栄枯にあらん」と誓って植えたといわれ、虎丸が死期をさとして自分の姓名の「藤原」にちなんで、藤の木を植えたとも伝えられています。

武蔵寺では、毎年旧暦の10月15日に地蔵会が催されています。

『筑前国統風土記』には、「今に至る迄毎年十月十五日に、地蔵会供養を行ふ事あり。是は虎丸長者武蔵村、井手古賀村、塔原村、萩原村、山口村、此五村に七十五所の別業ありき。…七十所の内二十五つつ集りて、三年に勤む。是虎丸長者か時よりの定式也と云」とあり、建立者とされる虎丸が、地蔵の化身であるとの伝説にもとづいて行われるようになったようです。虎丸長者の居館にちなんだ地名「簾」が古賀地区に残っていますが、居館があったかどうかは明らかではありません。



▲家来を従えた虎丸長者

山門をはいった右手に自然石の梵字板碑ほんじいたひが建っています。薬師如来を表す「バイ」が刻まれ、貞和3（1347）年に建立されたもので、虎丸の墓所ともいわれますが、はっきりしたことはわかりません。境内左手の紫藤の瀧たきの横には正平20（1365）年の古石塔があり、いずれも筑紫野市指定文化財です。

さらに統風土記は「むかしは大寺にて堂塔も多く、子院七坊有しと云。正法寺、善正寺、宗正寺、蓮花寺、地藏坊、石水坊、池上坊是也。池上坊は日蓮宗の僧、武蔵国池上より来り住る所也と云」と寺名、地名の由来を記しており、正法寺の姿は縁起絵図にも見えます。



▶「長者の墓」といわれる武蔵寺境内の梵字板碑